

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600368		
法人名	伊勢温泉観光株式会社		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	三重県津市戸木町411-11		
自己評価作成日	平成28年8月6日	評価結果市町提出日	平成28年9月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470600368-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 28 年 9 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、自然豊かな環境に恵まれた場所にあります。近くには、池やゴルフ場、梅、あじさい、藤が咲く花園があります。利用者様はさわやかな風が吹く遊歩道の散策を日課として楽しく過ごされています。理念である「和顔愛語」をモットーに利用者様本位の介護を行うホームとして日々努力を重ねています。認知症の理解を深め、利用者様、家族様の気持ちに寄り添った丁寧なケアを心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の隣には母体会社が運営するグループホームやショートステイの事業所があり、行事を一緒にしたりしてうまく連携をとりながら運営している。事業所は鉄筋4階建てで扉や腰板、作り付けの家具など随所に木材が使われ木のぬくもりがある。広い敷地内に会社関係者や管理者らの手作りの公園があり、休憩のための東屋、野菜畑など利用者がほっこりできるような環境が作られている。介護職員の不足が課題であるが、居室やトイレの掃除などを業者に委託し、職員が利用者と一緒に過ごす時間の確保とともに、「和顔愛語」を理念に職員と利用者が仲良く和気あいあいと過ごせるようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は運営の基本です職員間で共有し実践するよう心掛けています。	事務所や各フロアに理念を掲示し、職員や家族にも理解してもらうようにしている。申し送りの時や職員会議に理念について話し、職員が笑顔でやさしく接することで利用者が落ち着いた生活を送れるよう日々の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として交流を心掛けている。	幼稚園児が隣のデイサービスに来てくれたり、中学生の職場体験があり、利用者は地域の子供たちの来所を楽しみにしている。また、夏祭りのチラシは自治会より回覧してもらい、約400名の参加があり毎年楽しみにしてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に理解していただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況を報告し、意見を伺いながらサービス向上に努めている。	地域包括、地域の自治会長、自治会役員など6名の参加で偶数月の第1土曜日の夜に開催している。運営状況を報告したりイベントを紹介したり、災害時の協力をお願いしている。家族の参加がなく検討課題となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	協力関係が築けるよう取り組んでいる。	介護保険課へ書類を提出に行ったり、更新申請の時など、いろいろな情報を聞くようにしている。また、援護担当とも連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については特に気を引き締め介護にあたっている。	年間研修計画の中で、「虐待防止学習テキスト」を用いて身体拘束をしないケアについて研修している。参加できない人には資料を回覧し、必ず確認するようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に特に気を引き締め介護にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の説明において十分納得を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族と面会時などに意見を伺い、思いを反映させられるよう配慮している。	家族が、面会時や月1回利用料の支払いに来所するので、その都度気付いたことを話してもらおうようにしている。最近では入居者の高齢化と共に看取りの相談がよくあるので対応している。	運営推進委員会に家族の出席が得られないようなので、家族会や家族アンケートを実施したり、夏祭りの前後に家族参加のもと運営推進会議を開催するなど、更に家族の意見を吸い上げるように努めてほしい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の意見、提案を、毎週の会社の代表者との意見交換の場で採り上げて運営に反映されるよう取計っている。	申し送りのときや日頃から管理者に話しやすい雰囲気づくりに努めている。また、年2回の職員会議や自己面談を通して意見を聞く機会も持ち、管理者が会社の代表に話し運営に反映されるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則、諸規定、職場環境の整備、点検を行い、よい環境で働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の援助、研修参加の支援等、資質の向上、レベルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流を広げて資質向上に努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係が得られるようコミュニケーションをよく取るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	信頼関係が得られるようコミュニケーションをよく取るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活の実態の把握に努め、希望、家族の思いを理解した上で、適切なサービスが提供出来るよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らす関係であることを認識し、一方的に事を進めず意思を確認しながら進めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との関係は円滑に進むように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や人を含む関係はとても大切である。本人が一番気持ちが落ち着くと思うので出来る限り支援したい。	家族や親戚の面会、友達の面会がある。ゆっくりしてもらいやすいようにホールに小さな机や椅子を用意し居室で使ってもらっている。職員と一緒になじみの店に出かけおやつや化粧品を購入したりしている。また、家族には自由に外出や外泊が出来ることを伝え支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、関係が上手くいくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族が相談にこられた時は支援します。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちや思いを日常の会話等で把握し支援するよう心掛けている。	日々の生活の中でコミュニケーションを大切にし、積極的に話しかけ思いの把握に努めている。また、なかなか意思を伝えられない方がみんなの中で隠れてしまわないように、一人ひとり目が行き届くように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人等にお話を伺い、これまでの暮らしを理解することが、本人理解の鍵となる。これらの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の変化に気が付くよう声かけや見守りを行い、職員間で情報の話し合いを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月職員間で話し合いを持ちながら、介護計画を見直している。出来上がって来たプランを家族様に説明、確認をしてもらい印鑑をもらっている。	計画作成者は毎日の個別のカードックス記録や月1回のケア会議での意見を参考に、家族意見も取り入れ現状にあった計画を作成している。モニタリングは3カ月毎に行い評価している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテ、業務日誌などの記録、勤務交代時の申し送りなど、情報の共有、情報の漏れが無いように取り組んでいる。それをもとに介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの内容によりますが、本人、家族様と相談しながら取り組んでいきたいと思えます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源を出来るだけ把握し活用できるように取り組んでいきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医、かかりつけ医との連携を密にし、支援ができるように取り組んでいる。緊急時においても対応できるよう取り組んでいる。	利用者の約5割が協力医の受診で、月2回往診がある。従来からの主治医への受診は家族に協力を依頼している。ただ遠方に家族がいる場合は協力医に変更してもらったり、事業所が送迎したりしている。受診結果はその都度報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接施設の看護師又は協力医と連携を取りながら対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者の方と情報交換(電話連絡、訪問)をしながら取り組んでいます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医を交え、重度化した時は家族様と相談しながら対応している。	昨年の努力事項であり、今年度は職員で話し合いを持ち、終末期における看取り指針を作成した。ただ、体制が整わないので、医療が必要になったら病院への移送をお願いしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日常業務を通して、急変時の対応ができるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の行動について話し合いや訓練を行いどのように対応するか確認をしている。地域の方にも協力をお願いしている。	避難訓練を昨年11月と今年5月に実施し、消防署にも来てもらい、避難・誘導の訓練、AEDの講習をした。運営推進会議で災害時には自治会に協力を依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から接遇には十分気を付けるように話し合い取り組んでいます。	一人ひとりの思いを尊重した言葉かけができるように、特に接遇に配慮した対応をしている。帰宅願望の方への対応、トイレへの声かけなど周囲への配慮を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で会話を通じ、本人が意思を決められるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の思いに添いながら職員都合でなく、その日の希望に沿って楽しく過ごしていただけるよう取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ、おしゃれに本人の希望を聞きながら取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で準備や片付けをしてもらっている。	食材は委託業者が納入し、職員が調理している。月1日はオリジナルメニューの日として利用者のリクエストに答え希望の献立にしたり、3ヶ月に1度は外食を楽しんでいる。また、利用者と一緒に机を拭いたり下膳をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給や栄養状態については、本人の体調を考慮しながら普通食、おかゆ、きざみ食等対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアに取り組んでいる。希望に応じて歯科対応もしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立に向けた取り組みを行っている。時間を決めての声かけ、食事前後や就寝前の誘導を行い、トイレでの排泄自立に向けて支援している。	自立している方は3名で、あとはリハビリパンツやオムツを使用している。各居室にトイレがあるので、様子を見て部屋へ誘い、自立に向けて支援している。この時、特に自尊心を損ねないよう言葉かけには配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食事の形態を検討したり、体を動かすことを増やすなど、それぞれにあった対応をしている。医師の指示のもと下剤を服用していただくこともあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴嫌いな方もいるので健康状態、その時の気持ちの変化などを考慮し支援している。何とかして入浴していただくよう取り組んでいます。どうしても入浴出来ない方は清拭をするなど対応している。	週3回、午後に入浴日を設けている。湯は一人ひとり入れ替え、個浴を楽しんでいる。入居年数が10年を超え介護の重度化が感じられるので、特別浴槽などの設備を考慮し、増築を検討中である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠りやすい環境作り(部屋の温度調整、寝具を清潔に保つ)など考慮に入れ支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は医師の指示のもと、出された薬を理解し服薬確認している。また変化があれば状態を医師に報告し、その都度指示をもらい対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	急激な変化をさけることが大切です。毎日同じリズム、雰囲気でも過ごせる事が喜びのある日々を過ごせることになるのだと思い支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じ散歩、お花見、ドライブなどの外出に取り組んでいる。家族にも協力を依頼し外泊、外出の機会をお願いしている。	事業所から歩いて数分の所に小さな公園があり、東屋があったり季節の花や野菜が植えられ、日常的な利用者の散歩コースになっている。また、近所のスーパーへ車で買い物に出かけたり、季節の花見に出かけたりして外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については家族様と相談の上、少額でお願いしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙でやり取りが出来るよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は気持ちよく過ごせる場として、なじみの物を置いたり、生活感のある空間作りに取り組んでいます。混乱を招くような刺激がないように配慮し落ち着いて過ごせるよう工夫しています。	各ホールは明るく、窓からの景色は遠くまで見渡せ居心地の良い空間となっている。利用者と一緒に折り紙やちぎり紙で季節の壁面飾りがしてある。個別のアルバムが作っており、面会時には写真を見ながら会話が弾んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間が狭いが、ひとり一人の場所を決めテーブルを囲んだり椅子を並べてテレビを一緒に見たり、思い思いに過ごしてもらうように取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の一番落ち着く場所となるよう使っている。馴染みの物を置いたり、持ち込んでもらい居心地のいい空間となっている。	各居室には、ベッドや作り付けのクローゼット・洗面台・テレビ台・棚が木製で備え付けられ、トイレもある。家族の写真を飾ったり時計を置いたりして、家族と相談しながらその方らしい居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりに出来ることは行ってもらうように、相談しながら取り組んでいる。		